

助成事業実施報告書

団体名 ふじタウン自主防災会

代表者・役職名 氏名 会長 藤野 善武



▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

ふじタウン自主防災会の防災・減災活動推進

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

東日本大震災を受けて自主防災組織の必要性から、ふじタウン自治会として平成25年4月7日に「ふじタウン自主防災会」設置。自治会長が二年ごとに改選されるため、継続性が肝要な防災会の性質上、平成27年4月12日に自治会から独立した組織に変更。465世帯1158名

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

H26年8月の広島土石流災害を受けた見直しで、H28年2月に広島県・廿日市市よりふじタウン周辺部が土砂災害特別警戒地域に指定された。高齢化率が45%超の地域特性から、一層の防災・減災活動と防災資機材の充実が必要となった。丁度その時に廿日市市社会福祉協議会から、貴プロジェクトの公募助成の話を頂き、申請させていただきました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

- ①防災・班別会議の実施→防災情報の共有化を図るため、回覧板を回覧する班別を実施。平成28年度21回実施済み。平成29年度5回の合計26回実施予定です。
- ②自前・防災士の養成→自主防災会活動の継続と充実を図るために自治会員から防災士を要請する。
- ③防災用資機材の充実→一時避難所用として災害用毛布・エアマット・非常用トイレ
・避難活動用として折畳み式リヤカー
・防災会役員用ベストの購入

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

- 結果 ①防災班別会議 21回開催 合計参加者数 262名 会員世帯に対する会員世帯出席率46%。
②自前・防災士の養成 H28年度は1名取得したが、会社都合なので費用は要らないと言われた。
③防災用資機材の充実 上記に挙げた資機材は大半揃える事が出来た。
- 成果 ①防災班別会議は、高い出席率で、皆様に防災意識の向上と共に、地域の連帯感を強めて頂けた。
②自前防災士の養成も、自主防災会として資格取得を呼び掛けた効果とします。更に3名取得検討中。
③防災資機材の充実 住民皆様の安心感を高める事が出来た。
- 効果 ①防災・班別会議は、自主防災会の地域に密着した活動として注目を浴び、廿日市市社会福祉協議会や、広島県防災士会スキルアップ研修会・各地域の自主防災会で「地域・家庭で出来る防災活動」研修を実施しました。
②防災・班別会議で隣近所との絆が深まり、また自治会活動への理解が高まり、相乗効果として自治会総会・自主防災会総会への出席者が過去最高となった。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

- ①住民懇談会の継続実施。→住民からは、定期的に、住民が集まれることを実施してほしいとの要望がある。今回はたまたま土砂災害特別警戒地域に指定され、大きなテーマがあったので、高い参加率を得られたが、今後も住民の絆づくりに役立つ懇談会の実施が必要だが、何をテーマにするかが課題となっている。今年度は、お互いの命を助けるための基礎救命講習会を3回実施し、修了証という資格取得を図ることを計画。
- ②自主防災会設立にあたり、組織作りを優先したが、実効性ある防災会に脱皮を図る必要がある。

7. 参考資料

- ①H29年度ふじタウン自主防災会総会資料一式②防災・班別会議で使用した資料一式。③夏祭りポスター裏面に助成金を利用した防災啓蒙ポスターの現品。④ふじタウン自主防災会活動事例の写真集⑤その他チラシ等資料

参考資料あり ・ 特になし